

日本近代文学におけるヒステリーの表現

朴, 美姪

<https://hdl.handle.net/2324/4784710>

出版情報：九州大学, 2021, 博士（学術）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

氏 名 : 朴 美〇

論 文 名 : 日本近代文学におけるヒステリーの表現

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

本研究では日本近代文学の作品においてヒステリーという言葉がどのように用いられ、またその症状が物語の中でどのような意味を担っているかということについて考察した。その際、ヒステリーが作品のテーマや人物の性格や特徴、さらには人物間の関係、ストーリーなどになんらかの点で関わり、ヒステリーの要素が顕著であると考えられる作品を選択した。

序章では、ヒステリーの概念が文化史的にどのような意味を持つのかについて述べ、ヒステリーを研究する意義について論じた。さらに、先行研究を踏まえつつ、本論文におけるヒステリー研究はどのような方向性を持っているのかについて説明した。

本章は全4章から構成される。第1章「明治期におけるヒステリーと神経病」では、ヒステリーという言葉が流行する前に神経病という言葉の流行があったことを踏まえ、両者の関係について探ってみた。さらに、神経病という言葉の大衆化に影響を与えたといわれている三遊亭円朝『真景累ヶ淵』の中で神経病という言葉がどのように用いられているのかについて検討し、その中でヒステリーがあらわれていると解釈できる人物像や場面について考察を行った。

第2章「ヒステリーの妻たち」では、ヒステリーの女として多く描かれている妻という人物像に焦点を当てた。取り上げる作品は、作家自身の実生活を素材にして描かれた岩野泡鳴「五部作」と夏目漱石『道草』で、それぞれ第1節、第2節において検討した。妻のヒステリーが泡鳴の「五部作」では家庭崩壊をもたらしている一因として用いられている一方で、漱石の『道草』では家庭を維持する「緩和剤」として用いられている。第3節、第4節では妻の性欲とヒステリーが関連づけられて用いられている作品として、芥川龍之介「二つの手紙」と広津和郎『神経病時代』を中心に検討した。芥川の「二つの手紙」ではドッペルゲンガー発現の一因として挙げられている妻のヒステリーを中心に作品を分析し、ヒステリーが「二つの手紙」においてどのような意味を持つのかについて考察した。第4節で取り扱う広津の『神経病時代』は、チャーホフの影響から性格破産者という人物像を主人公にした作品であるが、ヒステリーは妻の病として用いられ、主人公定吉を神経病にさせる一因となっている。一方でチャーホフ『決闘』においては定吉の立場にあるラエーフスキイが「ヒステリー」とされている。両作品においてヒステリーはどのように用いられ、性格破産者とどのように関係しているのか、両作品を対照・比較しながら検討した。

第3章「女の語るヒステリー」では、女性作家によって語られるヒステリーについて考察した。「新しい女」たちは『青鞥』を中心に婦人解放運動を展開したが、当時の男性社会を脅かしたという理由で非難的となり、ヒステリーだとされる場合もあった。そうした社会的な雰囲気はヒステリーという言葉の流行とも関係があったと考えられるが、当事者でもある女性たちがヒステリーという言葉をどのように用いており、どのように理解していたのかについて探ってみた。第1節では、

作家岩野泡鳴の元妻であった岩野清「枯草」を中心にヒステリーがどのように描かれているのかについて検討した。第2節では、日本近代女流文学の代表的な作家である与謝野晶子の評論「姑と嫁に就て」の中でヒステリーがどのように語られているのかについて検討した。第3節では、プロレタリア文学家として労働者のために多くの創作活動や社会活動を行ってきた宮本百合子の短編小説「縫子」に描かれているヒステリーについて検討した。

第4章「創作と医学 — ヒステリー患者と物語 —」では、作家の作品において医学的知識がどのように機能しているかという観点から、ヒステリーの要素が果たす役割について考察した。第1節では、有島武郎の「或る女のグリンプス」と、ハヴロック・エリス『性の心理』を参考にして改作した『或る女』を中心に検討した。第2節では、日本において初めて精神分析を素材にした作品であるといわれている佐藤春夫『更生記』を検討した。第3節では、精神分析医を主人公にした三島由紀夫の『音楽』を取り上げた。

終章では、以上の議論を整理して簡単に再説した。さらに、本論文では、ヒステリーのあらわれが顕著であり、特徴的な作品をいくつか取り上げて考察対象としたが、たんに作品内のヒステリーの意味を詳しく考察しただけではなく、文学史の流れの中で、ヒステリーの表現のされ方に一定の変化や傾向が認められることを確認したということも説明した。